

キュービーネットホールディングス株式会社

2020年6月期 第1四半期 決算説明資料

2019年11月14日



NEXT10

今の10分も次の10年も同じ情熱で。

2020年6月期第1四半期 グループ連結業績（サマリー）



- 主に国内の価格改定の影響により、2020年6月期第1四半期は大幅な増収増益
- 上期業績予想及び通期業績予想は変更無し

通期グループ連結業績（サマリー）

単位：百万円	2020/6期第1四半期		2020/6期上期			2020/6期通期		
	実績	前期比(%)	予想	前期比(%)	進捗率	予想	前期比(%)	進捗率
売上収益	5,684	111.6%	11,129	110.3%	51.1%	22,342	107.1%	25.4%
営業利益	765	161.2%	1,225	144.3%	62.4%	2,200	111.7%	34.8%
税引前利益	731	160.4%	1,180	145.6%	61.9%	2,112	111.4%	34.6%
当期利益	487	155.7%	778	133.7%	62.6%	1,403	110.3%	34.7%
基本的1株当たり 当期利益	39円03銭		62円37銭			112円42銭		
1株当たり配当額	—		—			19円00銭		

国内

- 既存店の店舗売上高前年比は、価格改定の影響もあり順調に推移
- QB HOUSE：4店舗の新規オープン、移転3店舗、リニューアル2店舗、増席6店舗、主に貸主都合による閉店7店舗、業務委託先の店舗を直轄へ契約変更7店舗
- 7月に研修施設の仙台校を開校（国内5ヶ所目）
- 価格改定に伴いスタイリストの待遇改善を8月から実施開始
- 10月の消費税の増税時、QB HOUSEは税込価格を据え置き、FaSSは税込2,160円を税込2,200円へ変更

海外

- 香港：7月より60HK\$→70HK\$（16.7%アップ）へ価格改定を実施。来店客数減の影響は、想定の範囲内で順調に推移。

	改定前価格	改定後価格
香港の価格改定	60HK\$（約840円）	70HK\$（約980円）

- シンガポール：「QB HOUSE Premium」1店舗を新規オープン。また、店舗移転を1店舗実施（前期6月閉店→8月移転オープン）
- アメリカ：1・2号店順調。3号店の粗利（月次）黒字化。4号店を準備中

新店（国内）

【ショッピングセンター】

- キャンパススクエア(兵庫)
- イオン藤井寺ショッピングセンター(大阪)
- 津田沼パルコ(千葉)

【路面】

- 高槻センター街(大阪)

増席（国内）

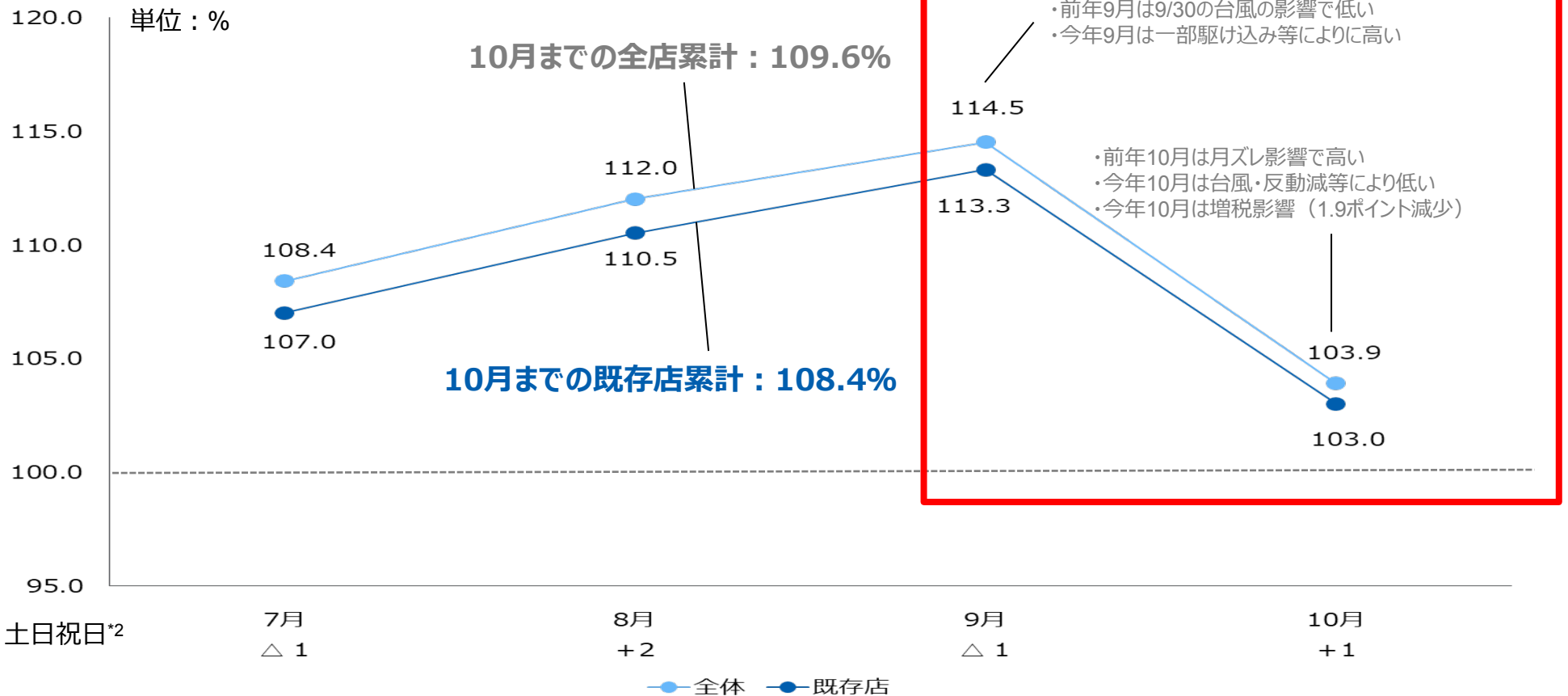
- mozoワンダーシティ(愛知)
- イオンモール京都五条(京都)
- カリーノ江坂(大阪)
- 博多マルイ(福岡)
- グランエミオ所沢(埼玉)
- ゆめタウン呉(広島)

国内店舗月次売上高（税抜）の前年比の推移



- 7月は長雨の異常気象の影響あり。9月は前年9月30日の大型台風の影響があり大幅増
- 10月の増税時にQB HOUSEの税込価格を据え置いたことで、前年比が1.9ポイント減少。また、前年9月30日の台風による月ズレ影響で前年10月の売上高が特に高い影響もあり。さらに、台風19号や大雨などの異常気象影響、一部9月の駆け込み及び10月の反動減もあり

2020年6月期 国内店舗月次売上高（税抜）の前年比*1



*1 既存店とは前前期首から期末まで通年で稼働し、今期も稼働している店舗。国内店舗（FC店・FaSSを含む）のデータであり、海外店舗分は含まず
*2 2019年6月期の同月と比較した場合の土日祝日数

- 6店舗の新店、5店舗の移転、9店舗の閉店（移転に伴う閉店を含む）
- 閉店は、国内の2020年のオリンピックに向けた駅改良工事やショッピングセンターのスクラップ&ビルドに伴う施設閉館等に伴うもの。近隣への店舗移転に注力

2020年6月期第1四半期の新店・移転・閉店の実績

単位：店舗	業態	2019/6期末	新店	移転	閉店（※1）	増減	第1四半期末
日本	QB HOUSE	554	4	3	△7	0	554
	FaSS	13	0	0	0	0	13
国内小計		567	4	3	△7	0	567
シンガポール	QB HOUSE（※2）	26	0	1	0	1	27
	QB HOUSE Premium	7	1	0	0	1	8
	Kids	3	0	0	0	0	3
香港	QB HOUSE	60	1	1	△2	0	60
	QB PREMIUM	1	0	0	0	0	1
台湾	QB HOUSE	27	0	0	0	0	27
アメリカ	QB HOUSE	3	0	0	0	0	3
海外小計		127	2	2	△2	2	129
連結グループ合計		694	6	5	△9	2	696

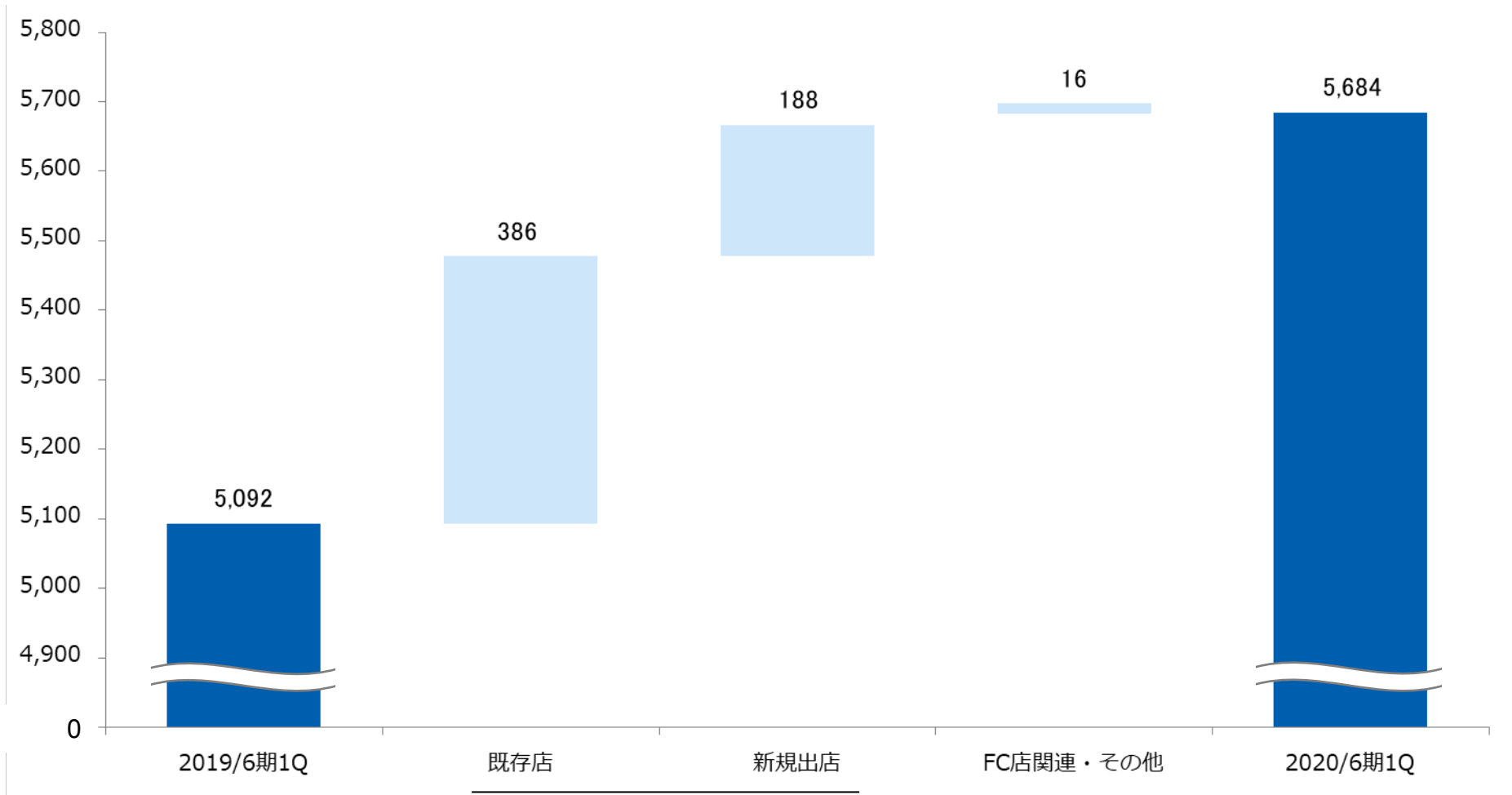
（※1）閉店数は移転に伴う閉店を含む

（※2）シンガポールの移転1店舗は前期（2019年6月）に閉店し、8月に移転オープン

- 売上収益の増加については、新店及び2019年2月からの国内QB HOUSEの価格改定、7月からの香港の価格改定の影響などにより、591百万円増収

単位：百万円

前期比：111.6%

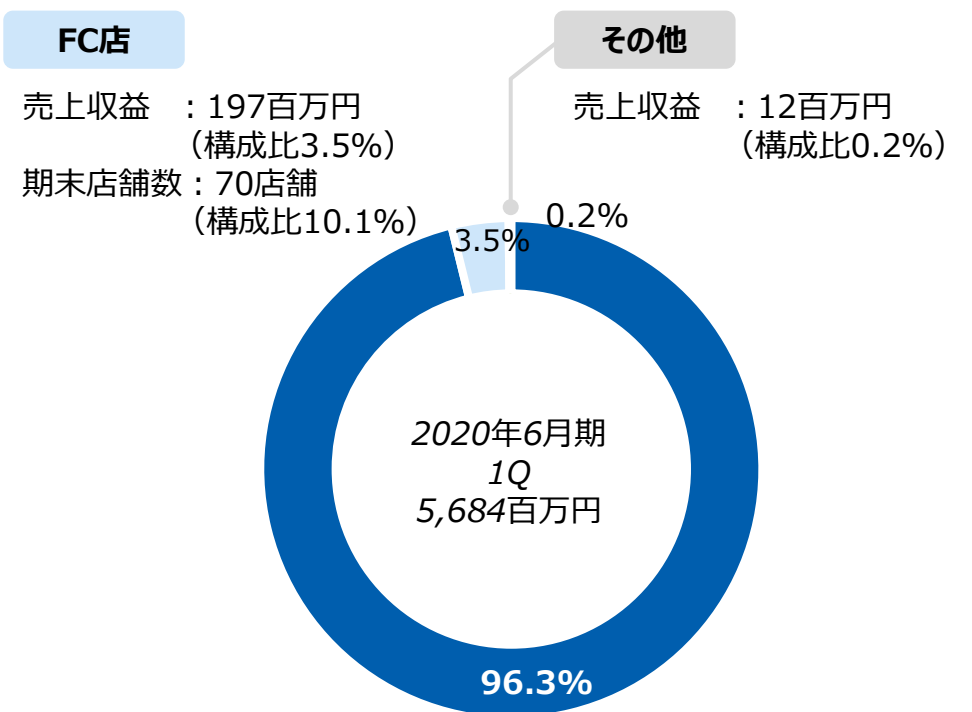


直営店

※新規出店は出店後13ヶ月未満の店舗

売上収益の直営店比率は96.3%、海外の比率は15.4%

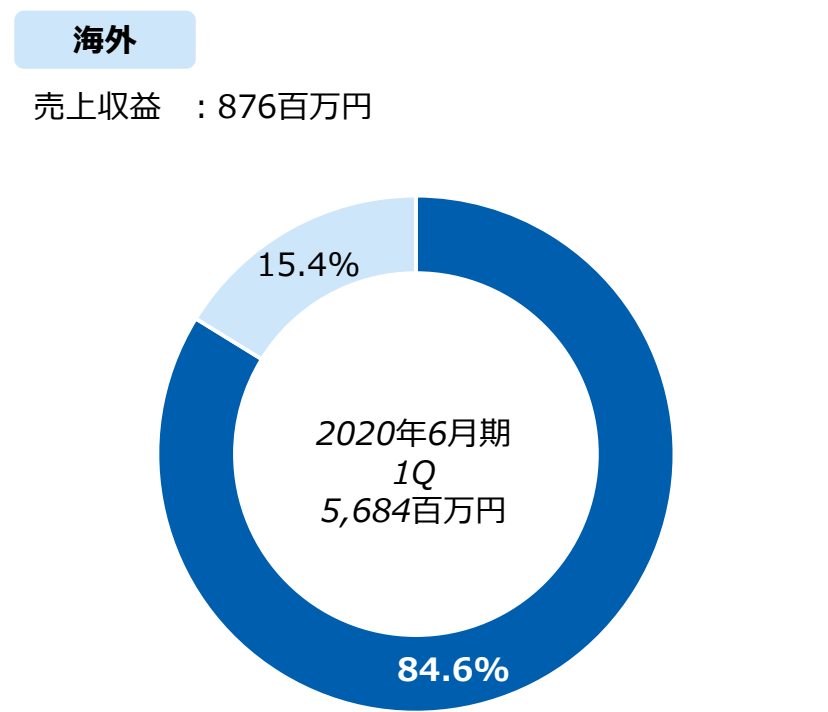
2020年6月期1Qの運営形態別売上収益構成



FC店
売上収益 : 197百万円
(構成比3.5%)
期末店舗数 : 70店舗
(構成比10.1%)

その他
売上収益 : 12百万円
(構成比0.2%)

2020年6月期1Qの地域別売上収益構成



海外
売上収益 : 876百万円

直営店
売上収益 : 5,473百万円
(構成比96.3%)
期末店舗数 : 626店舗
(構成比89.9%)

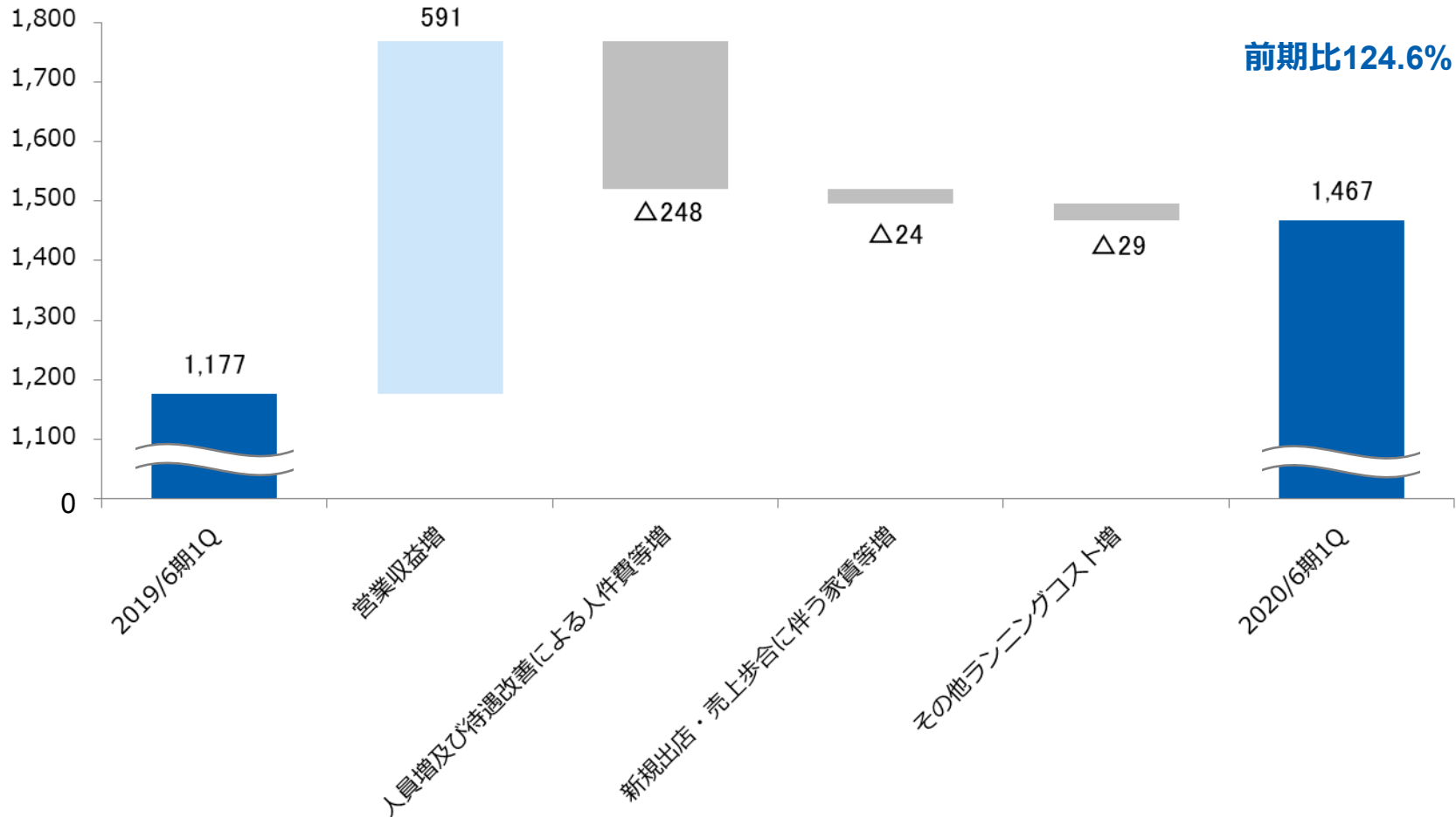
国内
売上収益 : 4,807百万円

売上総利益（粗利）の増減分析



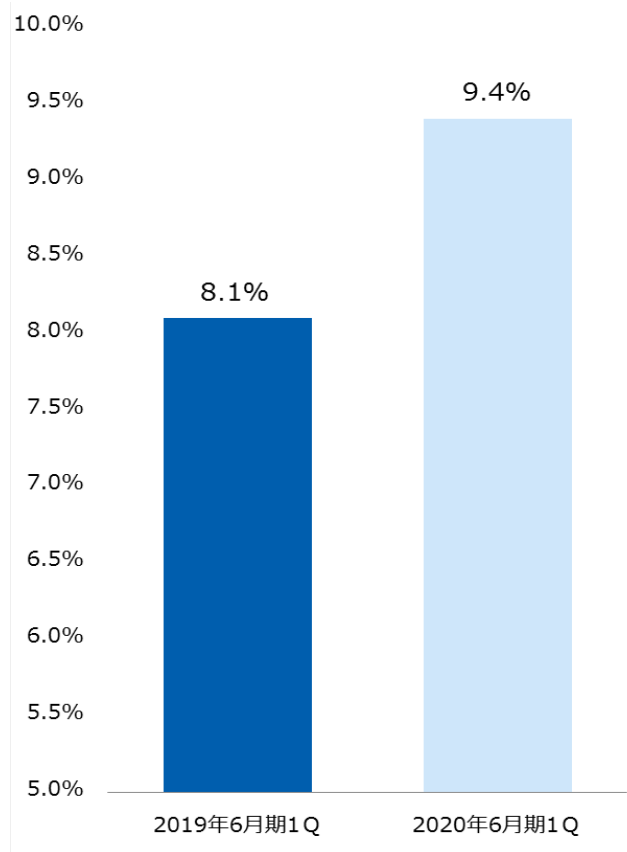
- 粗利については、売上収益が増加した一方で、人員増及び待遇改善に伴う人件費等増、新店・売上歩合に伴う家賃等増などにより売上原価が増加し、290百万円増益

単位：百万円

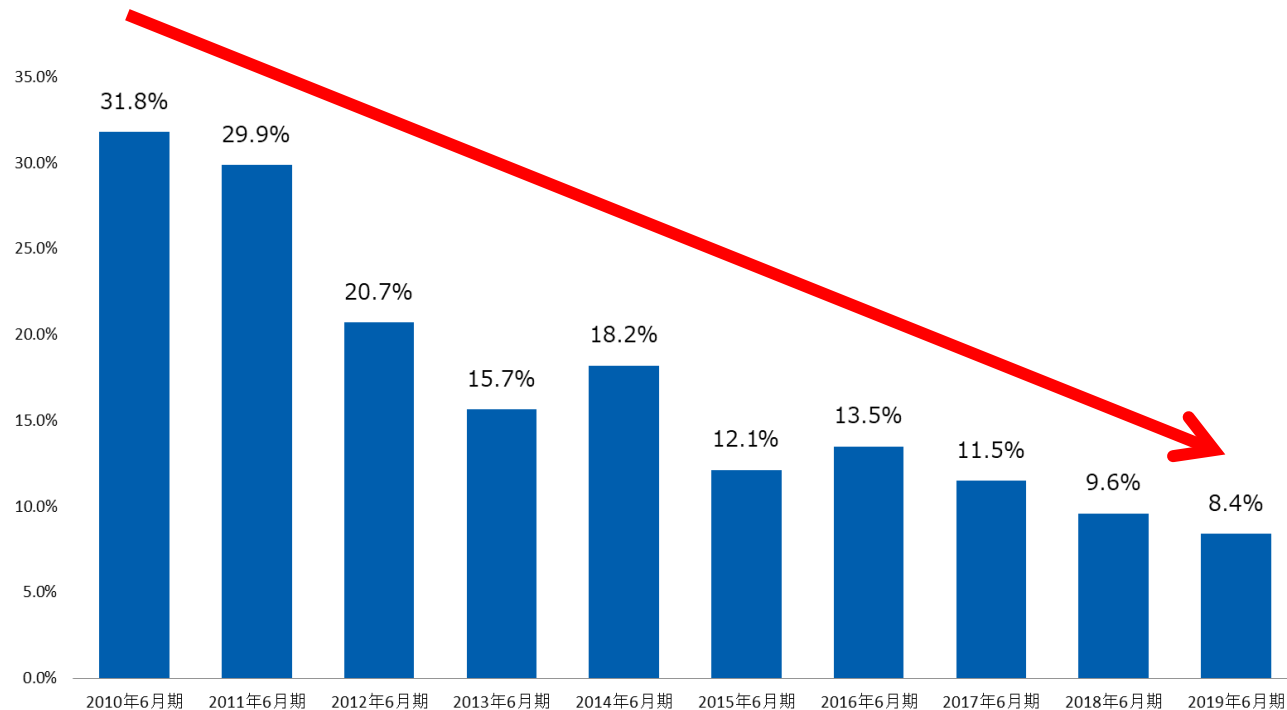


- 国内正社員の1Qの退職率は、研修施設（ロジス）において前期1Q：0人→当期1Q：4人と一時的な退職が重なり、年率換算で前期8.1%→当期9.4%（1.3ポイント上昇）

国内正社員の1Qの退職率（年率換算）



国内正社員の退職率の推移（年間実績）



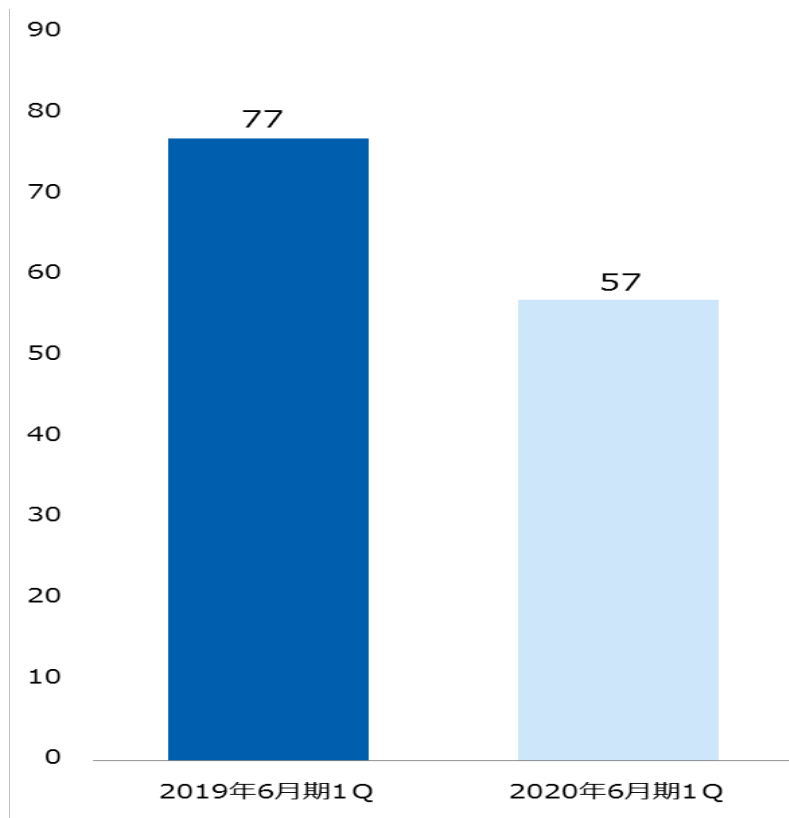
※本社は除く
※研修施設（ロジスカットプロフェッショナルスタイリストスクール）含む

国内の従業員数（スタイリスト）について



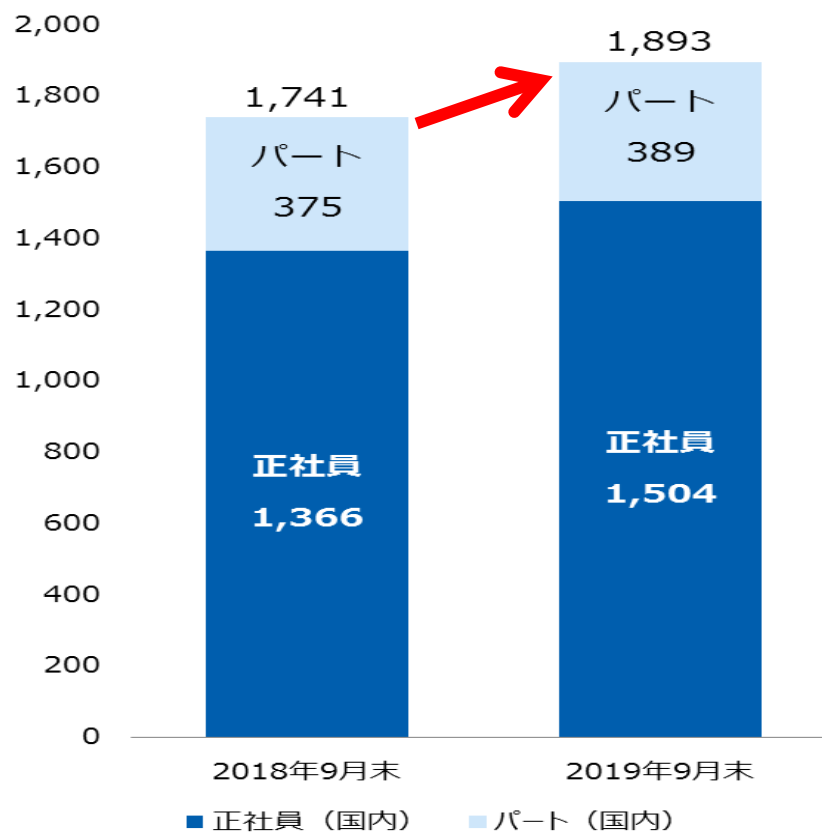
- 国内正社員の1Qの採用数は、前期の上場効果分が通常ペースに戻り、前期比20人減
- 国内の従業員数は、1年間で152人（正社員138人、パート14人）の純増

単位：人 国内正社員の1Qの採用数



※業務委託先店舗からの移籍は除く、本社は除く、研修施設含む

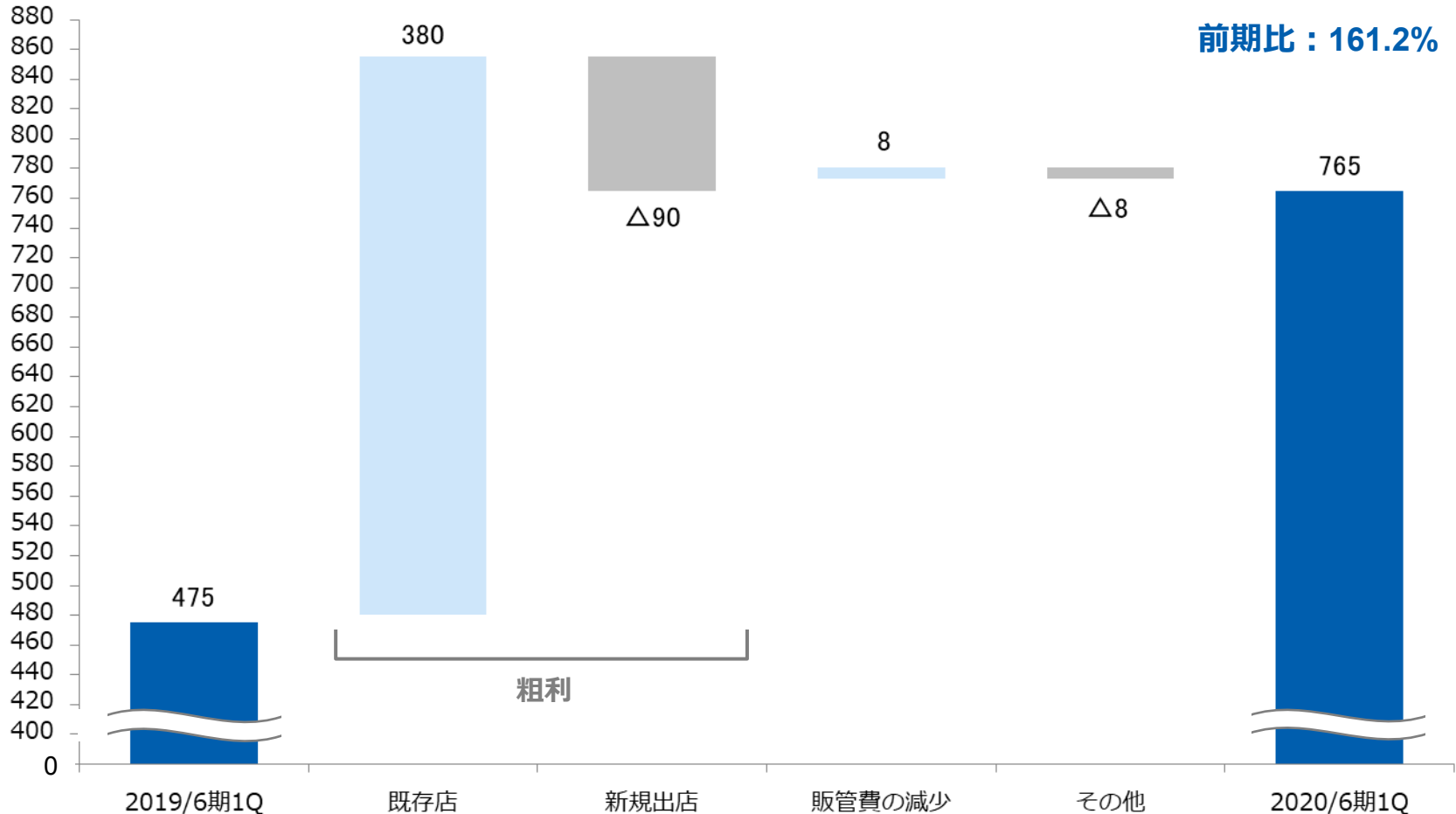
単位：人 2019年9月末の国内従業員数



※業務委託先店舗からの移籍を含む、本社は除く、研修施設含む

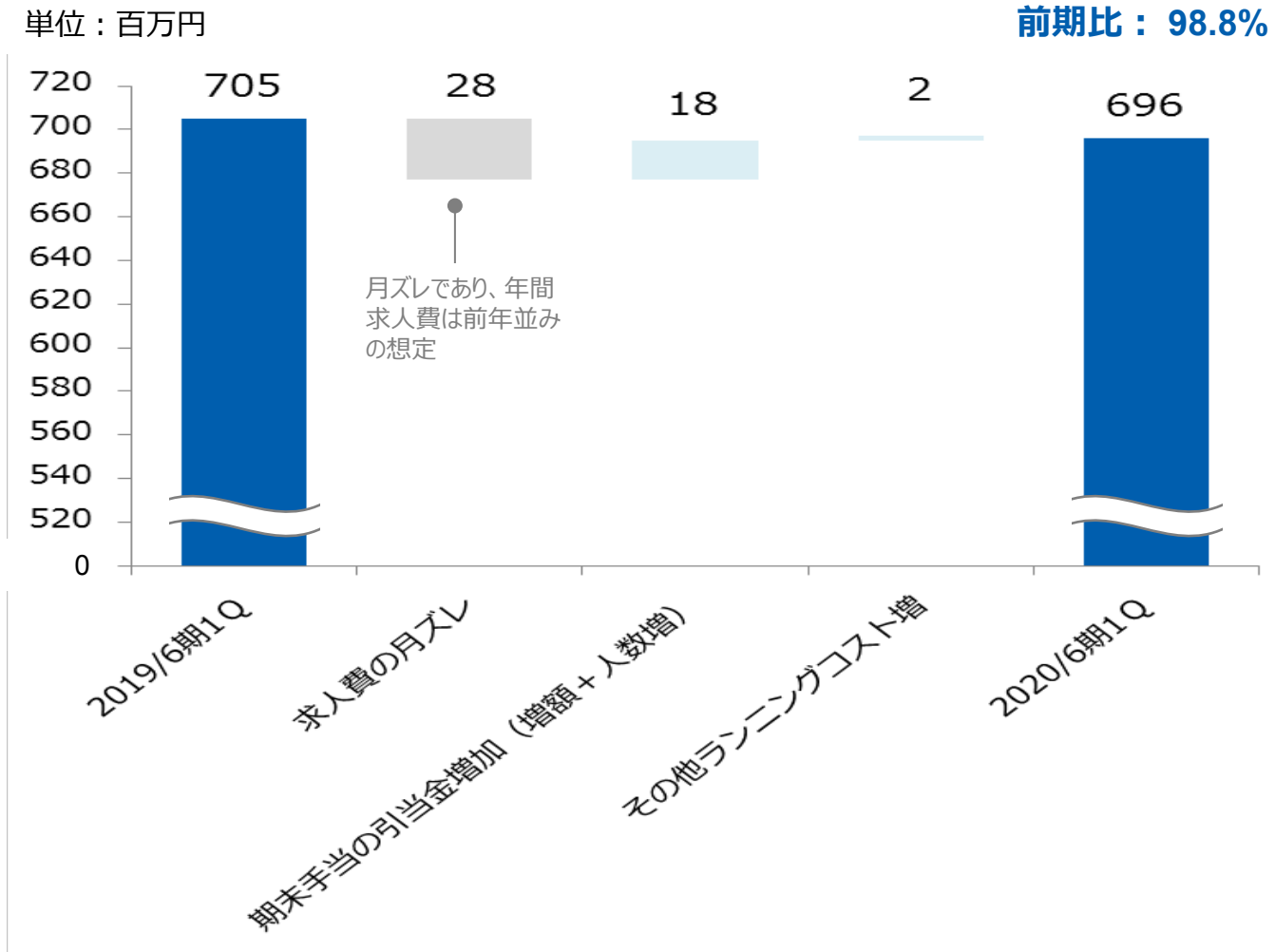
- 営業利益については、粗利が大幅に増加し、販管費が微減したことにより、290百万円増益

単位：百万円



※新規出店は出店後13ヶ月未満の店舗

- 販管費については、主に求人費の月ズレによる減少により、待遇改善の一環として前期末より増額したスタイリスト分の期末手当の引当金増加などを吸収し微減



連結損益計算書

単位：百万円	2019/6期1Q		2020/6期1Q			
	実績	売上比	実績	売上比	増減額	前期比
売上収益	5,092	100.0%	5,684	100.0%	591	111.6%
売上原価	△ 3,915		△ 4,216		△ 301	107.7%
売上総利益	1,177	23.1%	1,467	25.8%	290	124.6%
その他の営業収益	3		1		△ 2	28.2%
販売費及び一般管理費	△ 705		△ 696		8	98.8%
その他の営業費用	△ 0		△ 6		△ 5	642.7%
営業利益	475	9.3%	765	13.5%	290	161.2%
金融収益	3		4		0	114.8%
金融費用	△ 22		△ 38		△ 15	169.8%
税引前四半期利益	456	9.0%	731	12.9%	275	160.4%
法人所得税費用	△ 142		△ 243		△ 100	170.6%
四半期利益	313	6.2%	487	8.6%	174	155.7%

連結財政状態計算書

単位：百万円

	2019/6期 4Q末	2020/6期 1Q末	増減額	
流動資産合計	3,982	3,848	△ 134	連結キャッシュ・フロー計算書参照
現金及び現金同等物	2,489	2,656	167	● 期末の銀行休業日に伴う債権回収時期の差異
営業債権及びその他の債権	1,160	839	△ 321	●
棚卸資産	116	128	11	
その他	215	224	8	
非流動資産合計	20,299	25,798	5,499	
有形固定資産	2,327	1,906	△ 421	● リース会計基準（IFRS）の改正に伴い、前期「リース資産」は当期「使用权資産」に計上（△453百万円）
使用权資産	-	5,886	5,886	●
のれん	15,430	15,430	-	
その他の金融資産	1,773	1,801	27	● リース会計基準（IFRS）の改正に伴い、店舗賃料等の「使用权資産」を計上
繰延税金資産	519	536	17	
その他	248	237	△ 11	
資産合計	24,282	29,647	5,365	● 長期借入金の返済による減少（△175百万円） ● 納税資金のための短期借入金増加（300百万円）
負債合計	14,484	19,619	5,134	
営業債務及びその他の債務	273	361	88	
有利子負債	11,253	11,382	128	● リース会計基準（IFRS）の改正に伴い、店舗賃料等の「リース負債」を計上
リース負債	465	5,908	5,442	●
その他	2,491	1,967	△ 524	● 前期の未払法人税・消費税、期末手当等の支払による減少
資本合計	9,797	10,027	230	● 当期利益計上（487百万円） ● 剰余金の配当（△237百万円）
負債及び資本合計	24,282	29,647	5,365	

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	2019/6期1Q	2020/6期1Q	増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	309	1,030	720	
税引前四半期利益	456	731	275	
減価償却費及び償却費	193	782	588	リース会計基準（IFRS）の改正に伴い、使用権資産の減価償却費が増加（592百万円）
営業債権及びその他の債権の増減額（△は増加）	75	340	264	期末の銀行休業日に伴う債権回収時期の差異
利息の支払額	△ 20	△ 35	△ 14	
法人所得税の支払額	△ 227	△ 449	△ 222	国内キュービーネットの課税所得の増加に伴う支払増加
その他	△ 168	△ 338	△ 170	期末の銀行休業日に伴う社保預り金の支払時期の差異等
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 185	△ 150	35	
有形固定資産の取得による支出	△ 147	△ 114	33	
無形資産の取得による支出	△ 8	△ 0	7	
その他	△ 29	△ 35	△ 6	
フリー・キャッシュ・フロー	123	879	755	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 63	△ 703	△ 640	
短期借入金の純増減額（△は減少）	300	300	-	
長期借入金の返済による支出	△ 175	△ 175	-	
配当金の支払額	△ 185	△ 224	△ 38	1株当たり配当額18円→19円
リース負債の返済による支出	△ 55	△ 625	△ 569	
その他	53	21	△ 32	リース会計基準（IFRS）の改正に伴い、店舗賃料等のリース負債の返済が増加（578百万円）
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	90	167	76	
現金及び現金同等物の当期末残高	2,109	2,656	547	

国内

- 既存店：サービスの質向上により来店客数の回復に努める
- QB HOUSE：年間25店舗の新規オープン、年間8店舗の移転を計画、2019年10月に業務委託先の店舗を直轄へ13店舗契約変更済み
- FaSS：年間1店舗の新規オープンを計画
- 2019年10月の消費税増税時に国内QB HOUSEの税込価格を据え置き（税抜売上減の影響を業績予想に織り込み済み）

	QB HOUSE	FaSS
消費税増税の対応	価格変更無し	税込2,160円から 税込2,200円へ変更

海外

- 香港では、年間4店舗の新規オープンの計画
国内同様、サービスの質向上により価格改定に伴う来店客数減の回復に努める
- シンガポールでは、店舗移転を年間2店舗の計画（8月に1店舗移転済み）
- 台湾では、採用面の改善を受けて、年間3店舗の新規オープンの計画
- アメリカ（ニューヨーク）では、年間2店舗の新規オープンの計画

本プレゼンテーション資料は、当社及びその子会社の関連情報の開示のみを目的として作成したものであり、売買の勧誘を構成するものではありません。

本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。



QBHOUSE
GLOBAL



QBハウスの
訪問理美容サービス

